

Title	【定年退職教授の履歴および主要業績】 中道正之教授
Author(s)	
Citation	大阪大学大学院人間科学研究科紀要. 47 p.289-p.293
Issue Date	2021-03-08
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/79081
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

【定年退職教授の履歴および主要業績】

中 道 正 之 教授

なか みち まさ ゆき
中 道 正 之 教授

- 昭和 54 年 3 月 大阪大学人間科学部人間科学科 卒業
 昭和 56 年 3 月 大阪大学大学院人間科学研究科行動学専攻前期課程 修了
 昭和 59 年 3 月 大阪大学大学院人間科学研究科行動学専攻後期課程 単位取得満期退学
 昭和 59 年 4 月 日本学術振興会奨励研究員
 昭和 61 年 4 月 日本学術振興会特別研究員
 昭和 62 年 2 月 大阪大学大学院人間科学研究科行動学専攻後期課程 修了 (学術博士)
 昭和 63 年 4 月 大阪大学人間科学部助手
 平成 8 年 8 月 大阪大学人間科学部附属比較行動実験施設助教授
 平成 16 年 7 月 大阪大学大学院人間科学研究科附属比較行動実験施設長 (平成 26 年 3 月まで)
 平成 19 年 12 月 大阪大学人間科学部附属比較行動実験施設教授
 平成 22 年 4 月 大阪大学教育研究評議員 (平成 24 年 3 月まで)
 平成 26 年 3 月 大阪大学大学院人間科学研究科長 (平成 28 年 3 月まで)
 平成 28 年 3 月 大阪大学大学院人間科学研究科附属未来共創センター長 (平成 30 年 3 月まで)
 令和 3 年 4 月 大阪大学名誉教授 (予定)

中道正之教授は、昭和 59 年 3 月に大阪大学大学院人間科学研究科行動学専攻後期課程を単位取得満期退学した後、同年 4 月日本学術振興会奨励研究員、昭和 61 年 4 月日本学術振興会特別研究員を経て、昭和 63 年 4 月に大阪大学人間科学部助手に採用された。この間、昭和 62 年 2 月に大阪大学大学院人間科学研究科より博士号を授与されている。平成 8 年 8 月大阪大学人間科学部附属比較行動実験施設助教授、平成 19 年 12 月大阪大学大学院人間科学研究科附属比較行動実験施設教授に昇任し、平成 21 年 4 月には大阪大学大学院人間科学研究科教授 (行動生態学講座 / 比較行動学研究分野) に配置換えとなった。この間、平成 16 年 7 月より平成 26 年 3 月まで大阪大学大学院人間科学研究科附属比較行動実験施設長、平成 22 年 4 月から平成 24 年 3 月まで大阪大学教育研究評議員、平成 26 年 4 月から平成 28 年 3 月まで大阪大学大学院人間科学研究科長、平成 28 年 4 月から平成 30 年 3 月まで大阪大学大学院人間科学研究科附属未来共創センター長を務めるなど、大阪大学と人間科学部・人間科学研究科の発展に尽力するとともに、令和 3 年 3 月 31 日限りで定年退職するものである。

中道教授の研究領域は、比較行動学、霊長類学である。動物を一頭ずつ個体識別しながら、長期にわたる縦断的な観察を行い、誰と誰が何をしたのかを記録し続けることで、動物の行動と暮らしを実証的に描き続けてきた。岡山県真庭市神庭に生息する勝山ニホンザル集団は、昭和 33 年から大阪大学による研究が継続している調査地であり、この集団で生まれ育った全てのサル之母系血縁関係と年齢が今に至るまで把握されている。このような霊長類集団は世界

的にも数が少なく、大変貴重なものとなっている。中道教授は助手として採用された昭和 63 年より、この集団に関わる研究、教育、管理に大きな貢献を果たした。野生ニホンザルは出産場面で発声がない「静かな出産」をすることを指摘した論文や、個体の毛づくろい関係に生じた 10 年間の変化を描いた論文、弟が生まれたことで母親から養育を受けられなくなり「幼児返り」した姉が、母親ではなく祖母から授乳や運搬といった養育を受けるようになった事例を報告した論文など、それまで知られることがなかったニホンザルの生き様を、中道教授は鋭い観察力と粘り強い精神によって、極めて多くの査読付き国際学術論文として出版してきた。中道教授は、動物園を中心とする飼育動物を対象とした論文も数多く出版している。特に、動物園で展示されている動物の行動、動物園を訪れる来園者の行動、動物園動物と来園者の相互交渉などを研究する学問分野を「動物園行動学 (Zoo Ethology)」と名付け、新たな学問分野の開拓を行った。動物園行動学の展開は、観察した動物の行動を理解するだけでなく、種間比較や系統比較を通して、行動進化の共通性と特殊性の理解につなげる比較行動学的視点を併せ持った重要な取り組みであった。中道教授は、4 冊の単著と 2 冊の編著、104 本の学術論文（そのうち、76 本が国際学術論文）を出版している。そして現在も、筆頭著者として査読付き国際学術雑誌に論文を投稿・査読中である。

中道教授は、人間科学部・人間科学研究科において多くの学部生・院生の教育と指導にあたり、多くの優秀な学生を社会へ送り出すとともに、大学院生の研究や学位論文を指導し、気鋭の研究者を国内の大学に送り出した。Human Sciences All-English Undergraduate Degree Program（英語による人間科学コース）の設立と教育に大きな貢献を果たし、初代の Program Director を務めただけでなく、「Primateology in Japan」を長年担当し、教育の国際化を大きく推進した。

学外活動等においては、日本霊長類学会会長、国際学術誌 *Primates* の Editorial board、日本霊長類学会『霊長類研究』編集長、日本動物心理学会『動物心理学研究』編集委員、第 22 回日本霊長類学会大会大会長、京都大学霊長類研究所運営委員会委員、京都大学野生動物研究センター運営委員会委員、国立大学教育研究評価委員会専門委員、日本学術振興会科学研究費委員会専門委員、公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団選考委員会委員、真庭市神庭の滝野猿管理委員会委員、高梁市天然記念物臥牛山のサル生息地保護管理委員会委員、「新たな京都市動物園構想」の策定に係る検討会議委員などを務め、学会や学術機関や公共機関の運営に多大な寄与と貢献をした。査読をした学術雑誌は 27 誌にのぼり、そのうち 22 誌が国際学術誌であった。中道教授は、一般市民や子どもを対象とした、講演、サイエンスカフェ、出前授業、研修会、ニホンザル観察会などを積極的に開催した。これらの取り組みは、人間科学部・人間科学研究科の広報や研究のアウトリーチというだけでなく、動物を観察して彼ら／彼女らの生きる姿にふれることが深い喜びになることを一般の方々と共有する場であって、自然や生きものへの理解と敬意を育む貴重な機会を提供してきた。

以上のように、中道教授は、人間科学部・人間科学研究科の研究、教育、運営を通じて、その充実と発展に多大の貢献を果たすとともに、比較行動学と霊長類学における活発な活動を

通して、我が国の学術振興に寄与するところ大であった。

主 要 業 績

主要著書

1. 中道正之 『ニホンザルの母と子』 1999 福村出版 206pp. (単著)
2. 中道正之 『ゴリラの子育て日記』 2007 昭和堂 228pp. (単著)
3. 中道正之 『サルの子育て ヒトの子育て』 2017 KADOKAWA(角川新書) 280pp.(単著)
4. 中道正之 『写真でつづるニホンザルの暮らしと心—岡山・神庭の滝の群れの60年』 2019 大阪大学出版会 147pp. (単著)
5. Nakagawa, N., Nakamichi, M., & Sugiura, H., (eds.) *The Japanese macaques*, Springer, Tokyo, 2010, 402pp. (編著)
6. 八十島安伸・中道正之 『食べる』(シリーズ人間科学 第1巻) 2018 大阪大学出版会 238pp. (編著)

主要学術論文

1. Nakamichi, M., Fujii, H., & Koyama, T. (1983) Behavioral development of a malformed infant in a free-ranging Japanese monkey group. *Primates*, 24: 52-66.
2. Nakamichi, M. (1989) Sex differences in social development during the first 4 years in a free-ranging group of Japanese monkeys, (*Macaca fuscata*). *Animal Behaviour*, 38: 737-748.
3. Nakamichi, M. & Shizawa, Y. (2003) Distribution of grooming among adult females in a large, free-ranging group of Japanese monkeys (*Macaca fuscata*). *International Journal of Primatology*, 24: 607-625.
4. Nakamichi, M., Murata, C., Eto, R., Takagi, N., & Yamada, K. (2015) Daytime mother–calf relationships in reticulated giraffes (*Giraffa camelopardalis reticulata*) at the Kyoto City Zoo. *Zoo Biology*, 34: 110-117.
5. Nakamichi, M., Ueno, M., & Yamada, K. (2020) Triadic grooming among adult females in a free-ranging group of Japanese macaques. *Primates*, 61: 593-602.